



ケ 5
68
30





信玄全集末書上卷之八

陳以上

- 一 陳以上乃事
- 二 小陳取他法并書畫の事
- 三 大陳取乃事
- 四 相陣取れ事
- 五 陳取事
- 六 八指陳取營の事
- 七 官舎陳取乃事
- 八 官園大陳取の事
- 九 官舎連陳取乃事

信玄全集末書上卷之八

十方名山深不可測之事
 十一方名相陳其圖之事

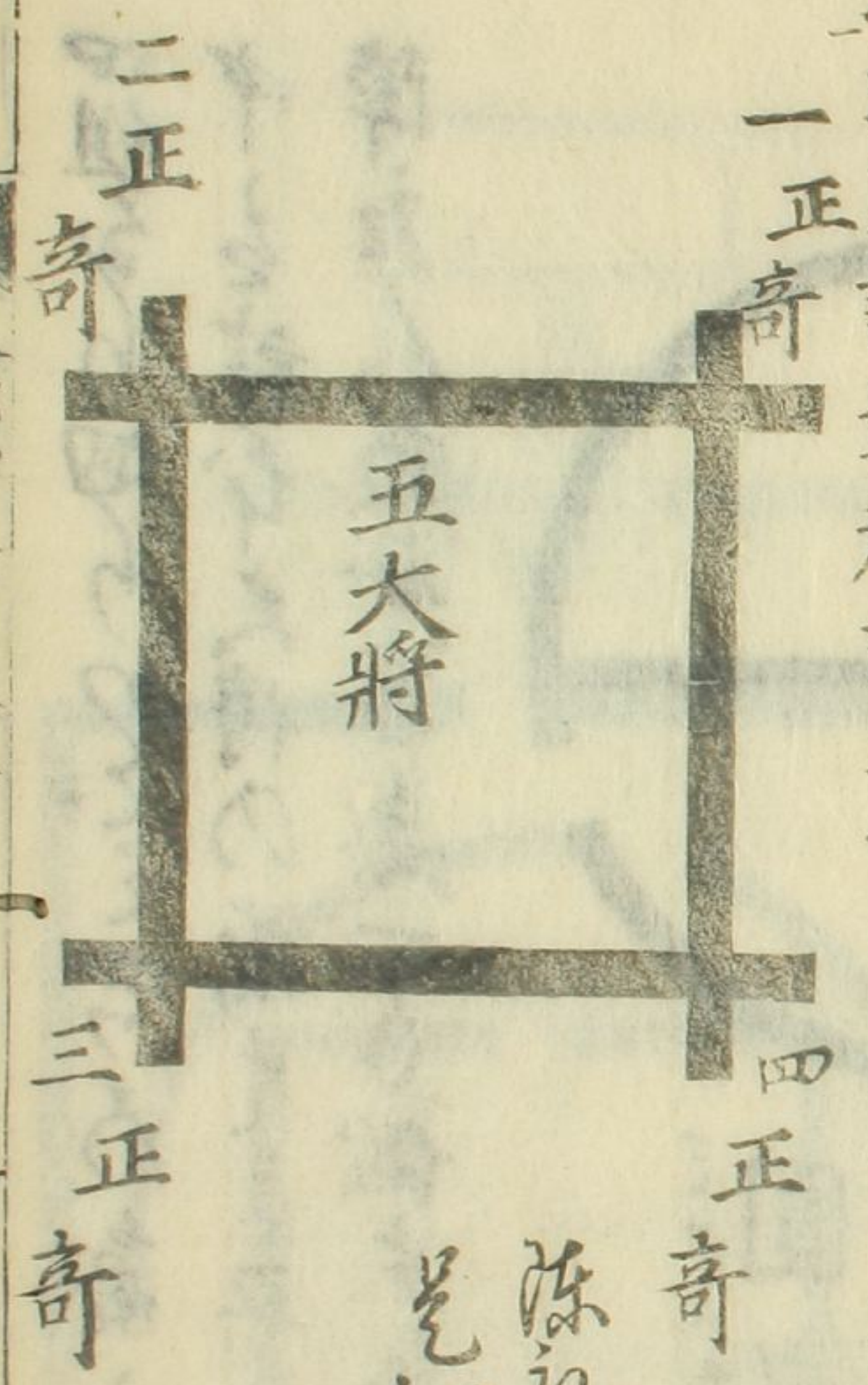
[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

信玄全集末書上卷之八

陣取上

○一陣取中此事

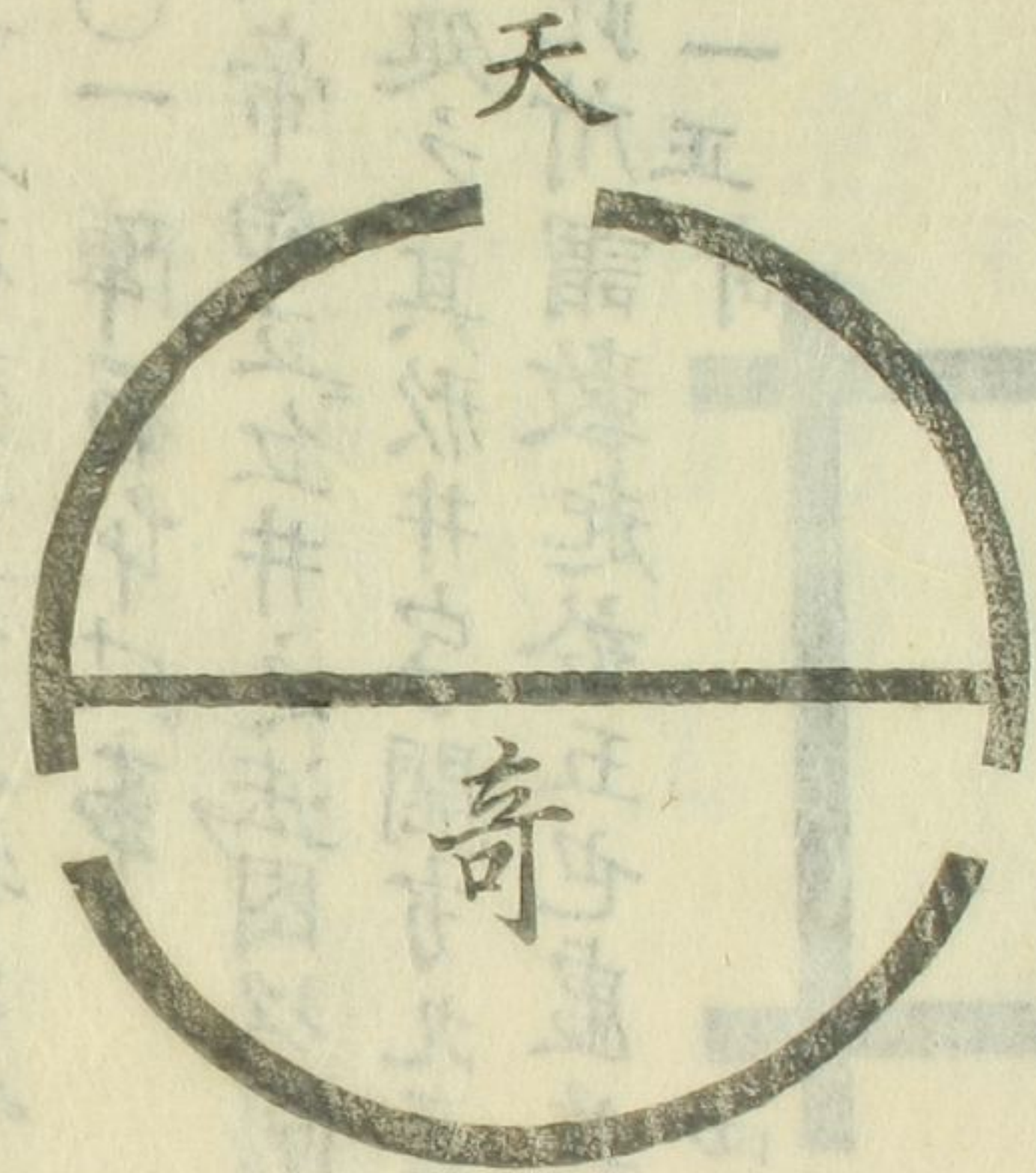
黃帝始立五井之法因以制五故井分爲四道八
 家處之其形井字開方九焉五爲陣法四爲開
 地此所謂數起於五也虛其中大將居之



陳其佈立九
 是也活用

信玄全集末書上卷之八

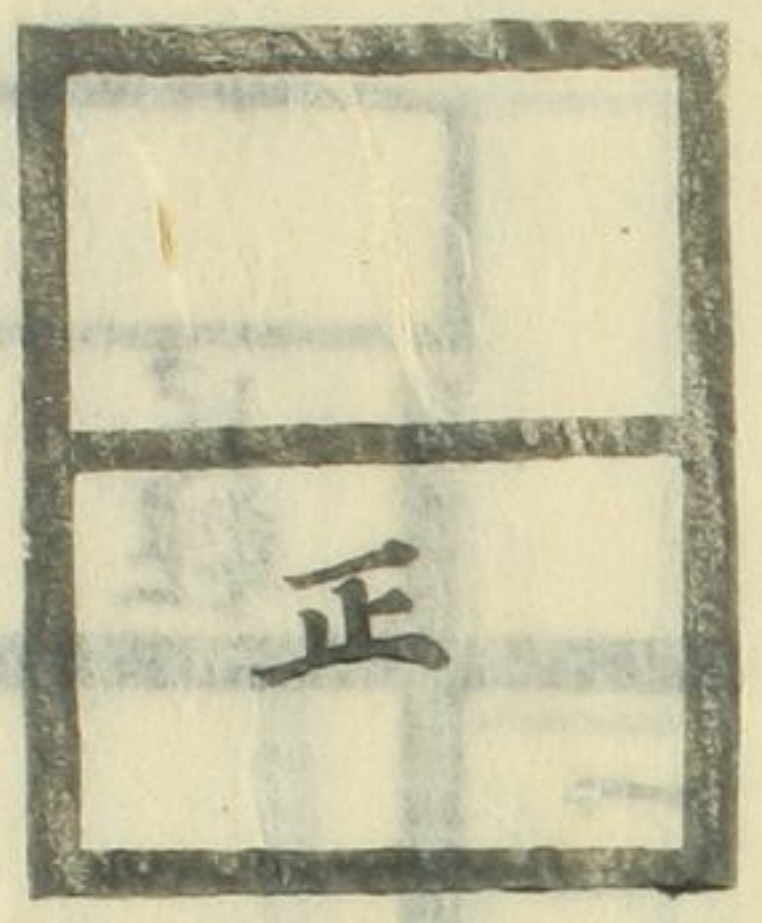
四組あり廻りかごと四ツ角ハツと四組也
中を能く大将の陣をよ五
陣に人数を毎一自城あり



三トカケルモノハ
圓者往

一圍三ツ

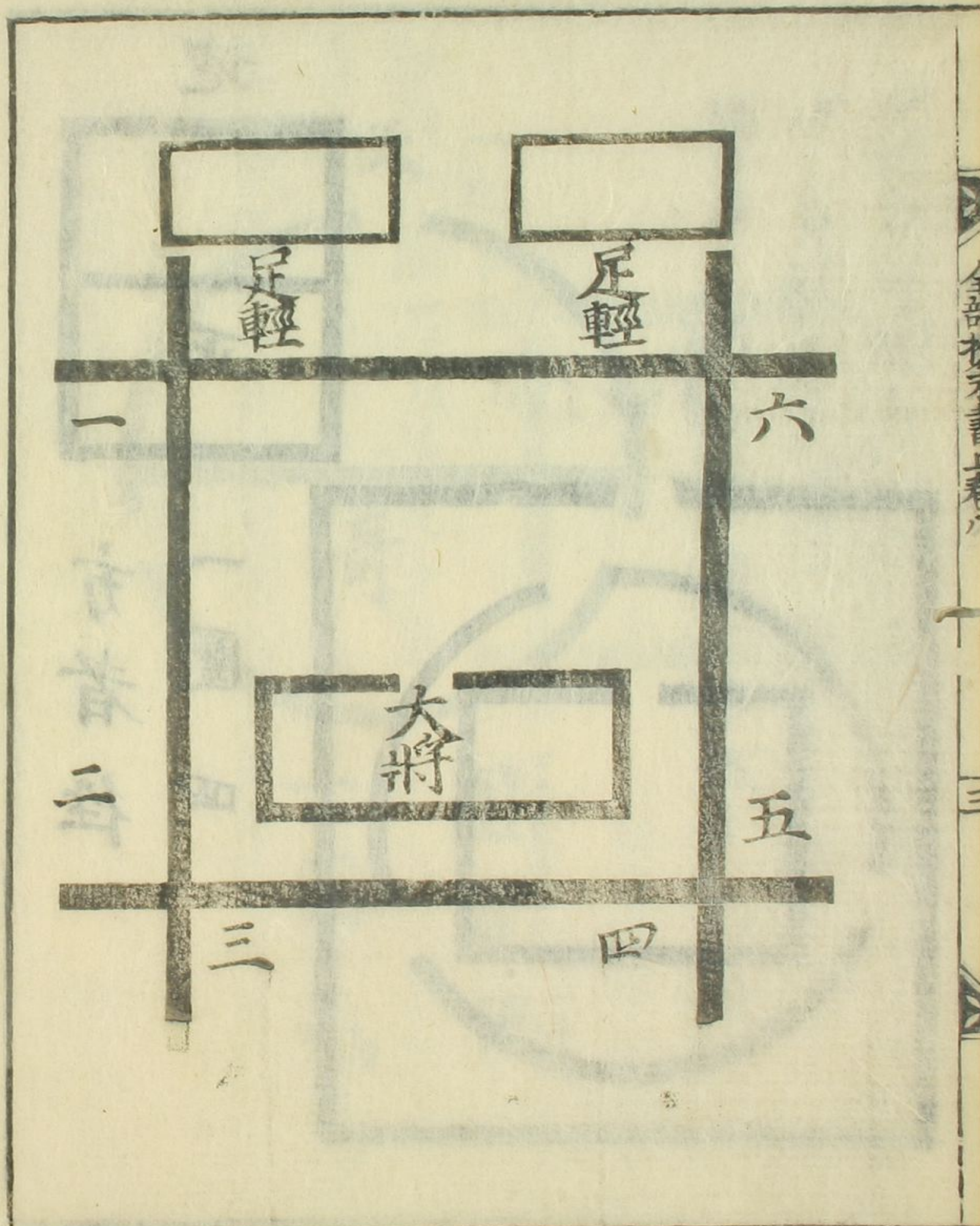
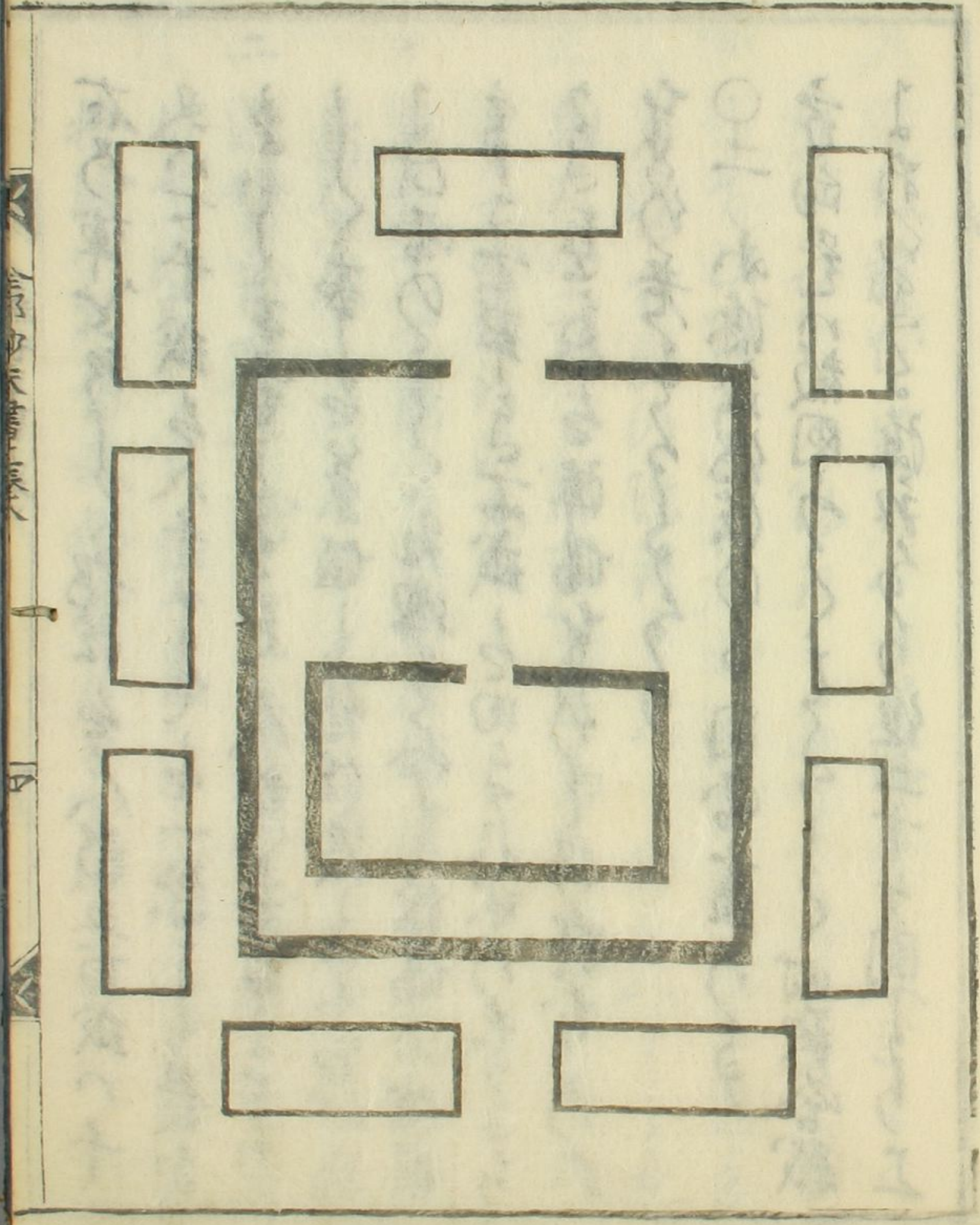
地



方者往

一圍四





全部抄寫書上卷六

三

右乃陣と云くは陣法を人教五百或ハ千
又ハ七千或ハ八千中を以て一隊と云くは最
きも其可と云くは人教と一隊と云くは
一々事と云くは陣法も其法度も其計
よけ等のことと云くは陣法の地敷
も其可と云くは陣法も其計と云くは
其可と云くは陣法も其計と云くは
其可と云くは陣法も其計と云くは

○二 小隊の陣法のもの同書畫あり
方向は其の敵國ありと云くは陣法も其計
よけ等のことと云くは陣法の地敷
も其可と云くは陣法も其計と云くは
其可と云くは陣法も其計と云くは

よは陣法を定めて多隊ありと云くは
其可と云くは陣法も其計と云くは
其可と云くは陣法も其計と云くは
其可と云くは陣法も其計と云くは
其可と云くは陣法も其計と云くは

一 奥の陣三十騎と一書又騎はありと云くは
其可と云くは陣法も其計と云くは
其可と云くは陣法も其計と云くは
其可と云くは陣法も其計と云くは
其可と云くは陣法も其計と云くは

ありはよ一着又拾獲つよありても法
るめけ

右合る百又拾獲と申大船と守護シユ一々三重
と陳屋とわくらけと書大船の陳とうけ
用給ふ是と改教國ありくもくもくもくもくもく
我と不危とあり

三 武長身は武勝沖龍なり武勝海舟持
なり武勝

四 湯長柄武百人の奉り四張是ふノもの
武百人余

又武長柄なり武勝同長柄の名

六 担龍身は武勝龍さう一たよ

右湯長柄港は龍わごりやう繪湯よあり

七 湯長柄龍門組子百武拾人

八 湯小人中なる組子あり

九 湯長柄足持大船三人書よ替りま人のい

孫と陳屋とくく組子あり

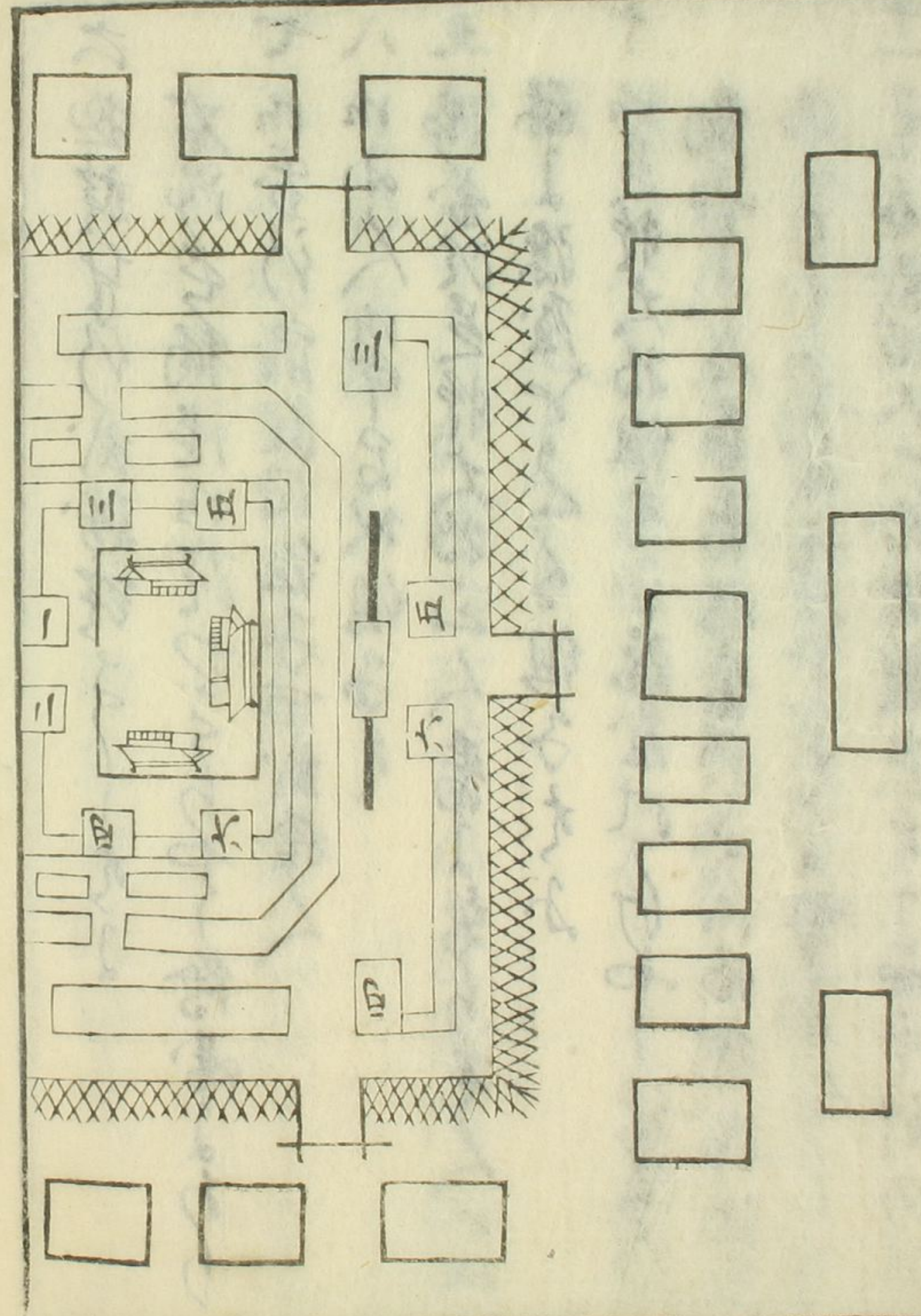
十 湯足持大船組たよ陳屋れけやう法役り

勅やうと書番船書のはゆ押湯徳立

のしとそ外法役またよ替りあり

十一 是と武百又六拾獲難長たよ四千計のほ
りあり

小陣取場

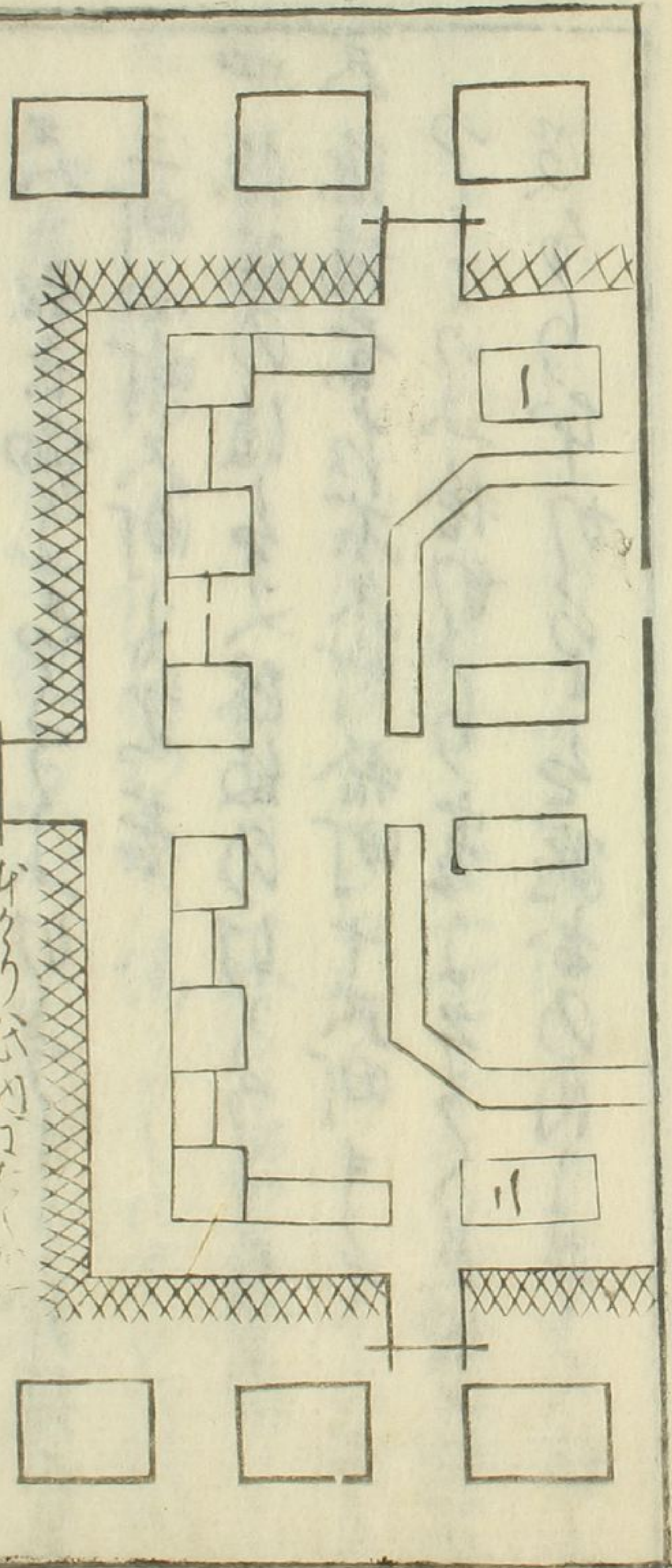


槍薙高
筑屋地
の役也

凍場を以

- 一 是地高相
- 二 是地高相
- 三 是地高相
- 四 是地高相
- 五 是地高相
- 六 是地高相

かきり公内
の多サ



陳場之葉

- 一 陳場奉引張るハ百張式百張計也
- 二 割札又ヶ葉書のもの
- 三 陳場葉右のりくの内ちまとい十尺式拾五尺拾
五尺も張紙おといふけごうの去居まとい式
尺 和云葉よあごごふけごうと外張のり
- 三町四町又町も不若
- 四 陳場の後と又張紙のけごうあり
- 又 陳場葉右又町拾町十又町すくてもとと
すといふ捨かくり家よまといく足將大物の
役多りなかりまとい張紙の内よまとい組

- かくり較と陳の多かみりあり
- 六 かのり二やうの葉中と一平よても不若
- 七 葉垣と陳屋のり七つあり
- 八 葉垣とけごうのり三拾五尺又拾圓
- 九 外張紙張紙の葉の場よて中つら同
んまとい葉と勤る
- 十 けごうのりまとい式拾五尺同与まとい葉
不何張かくりのり
- 十一 あんしとさり場内りがりかくりまとい
て紙をわらふ紙葉と勤るあり
- 十二 けごうとさり二つ中又まとい二つ葉

大物と大よ二ツ場

一 泣宰人百又拾勝と二ツよ分五拾勝ハ越後
宰人又味与三巻勝一分ハ遠列宰人敏尾
孫雲馬又二ツ又拾勝ハ関东宰人繩元龍之助
右三人の既組才一又拾三勝或田共庫ヤ
大物ありて三本小勝ヤ此他法を此中勝の
しく様子ハ少習あり

二 涉野中組百十勝十又勝の小身宗直此族
ヤとちて陳ねあり

三 系隼人作祖五拾勝と此七十勝合ら百二
十勝此中陳の外張一陳ね此陳習の村と

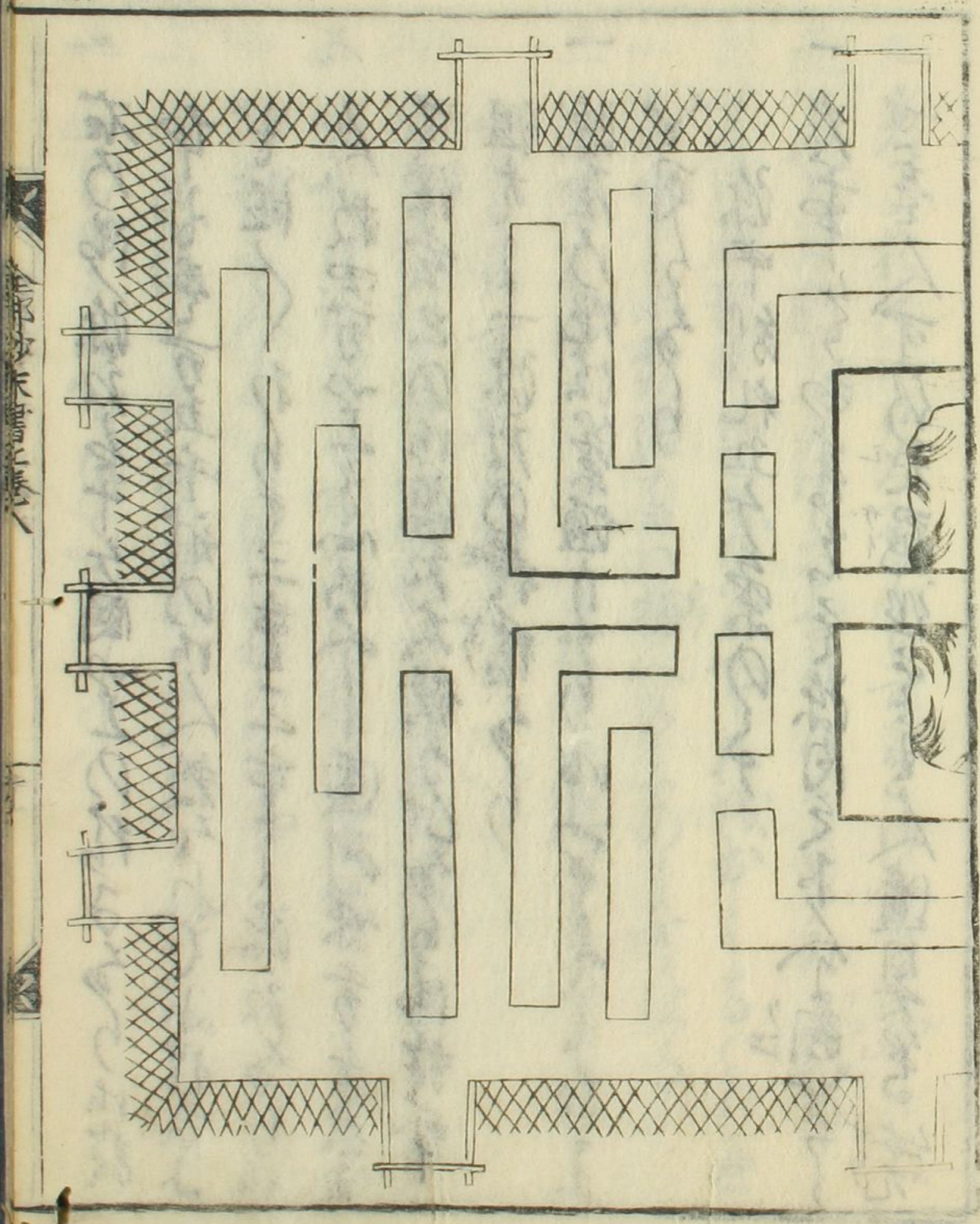
我中よお遊軍乃陳場なりはあり陳場の
見様りのお遊軍乃と後合よて定て此中
の陳場なりはあり陳場の名を此中
味も分くともよく陳場と習ねるくとも不
由内のお遊軍

一 足将大物ありあり買ありて女人此合
とよ六巻ありあり習ねてあり

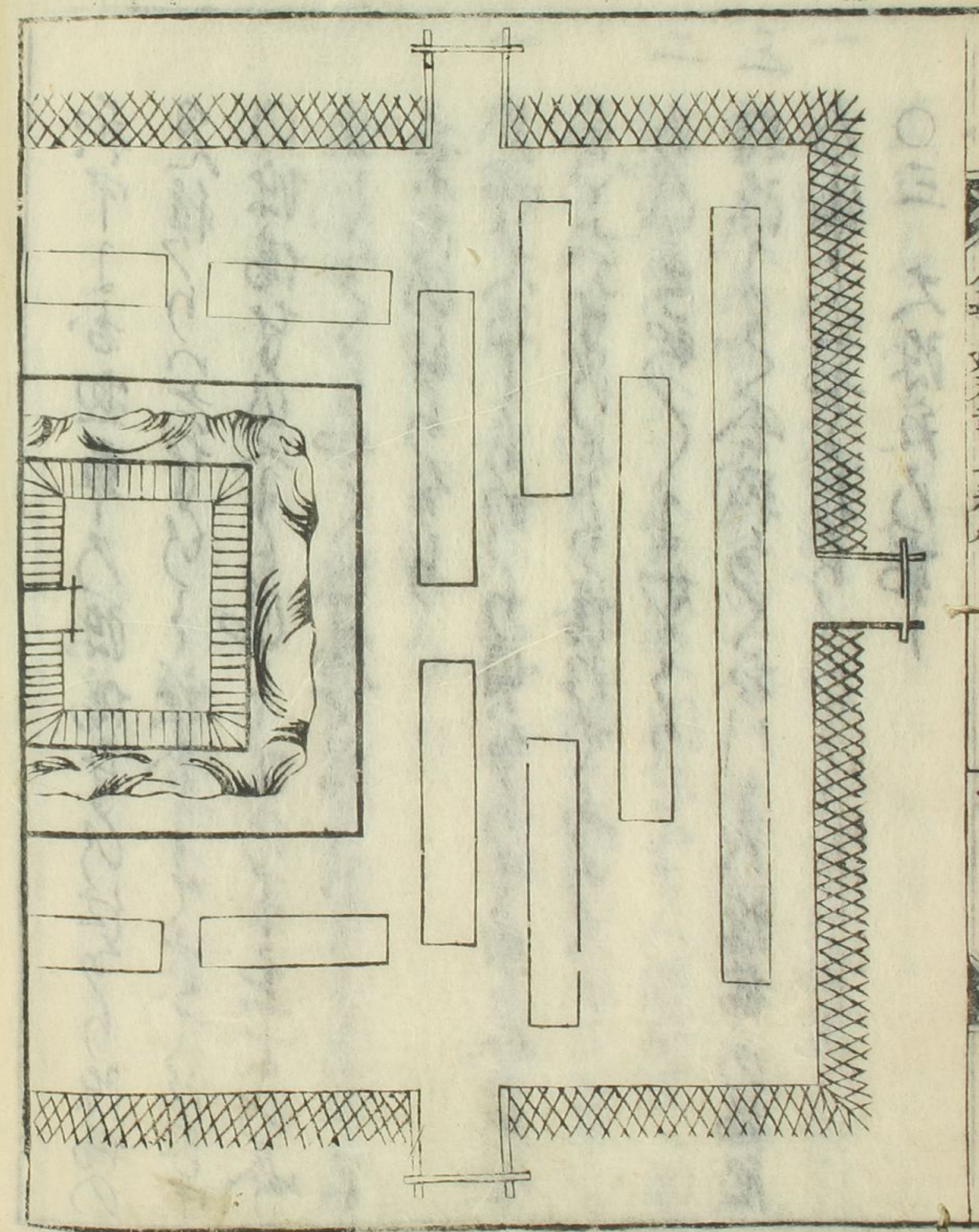
二 おひとありありありあり

三 対陳よとく合戦ありおひと陳掃の徳殿
乃徳と二ありあり

○三 大陳ねり事



金華縣志卷之八



金華縣志卷之八

九

右乃湯陳れを十ヶ國以上の根子ありは諸
 本もを可五千計の所人教をれむ小姓原小
 も恒くわりのて二重三重は陳れありは
 人教四可^とと心ゆへ一遠列味方ヶ原よ
 て信玄公の由陳れ大教りけありは諸本
 組れよ一陳れの控^モ格あり
 一陳れ乃他法業垣りがりのゆありも右ま
 と用りあり

陳中割れ五ヶ条の事

一火事とありありを陳内之下^ノ今^ノ國^ノとあり
 二を人可^シ死^シ罪^シ但^シを主人^ノ道^ノ具^ノ大^ノ等^ノ無^ク死^ス

矢よ控てい山大おしり可をい合力事

二馬と教むるはく止るもをる^カ過^ク料^トと
 二て由原取之はる原^ノ底^ノ十又^ノ張^ノおしるは^ノ底^ノ海
 一をへ一^ノ小^ノ荷^ノ結^ノるは^ノ掛^ノへい^ノ底^ノのよ可^ノは^ノる

三陳中不^レ降^ルとありよ控てい繩とありを^ノとあり
 一^ノ方^ノ一^ノり^ノ可^ノあ^ノる^ノ料^ノとあり

一^ノ將^ノ變^ノ局^ノ引^ノ言^ノ勢^ノ小^ノ款^ノ札^ノ兼^ノ遊^ノ具^ノ大^ノ酒^ノ堂^ノ林^ノふ^ノとあり
 二^ノ宣^ノ院^ノに^ノ論^ノ双^ノ方^ノ可^ノ為^ノ死^ノ罪^ノ但^ノ理^ノ根^ノよ^ノとあり
 三^ノと^ノ越^ノと^ノへ^ノ一^ノ付^ノ他^ノ陳^ノ林^ノふ^ノ之^ノ事^ノ

一^ノ陳^ノ場^ノを^ノひ^ノ武^ノ功^ノの^ノ事^ノ
 二^ノあ^ノり^ノ田^ノよ^ノと^ノは^ノく^ノあり

二 山より下りて来るもの後より
 三 山より下りて来るもの後より
 四 川の遠道より下りて来るもの後より
 五 人救うことあるもの後より
 六 敵者の場敵方の方の刃を切場或はあきらめ
 和合戦の火刃を切場より下りて来るもの

陣具取次書のもの

- 一 番 先立の付り相成る組立のもの
- 二 番 二りのもの
- 三 番 ようしり後立小荷取のもの
- 四 番 小脇後二番よ右脇二番よ左脇後より

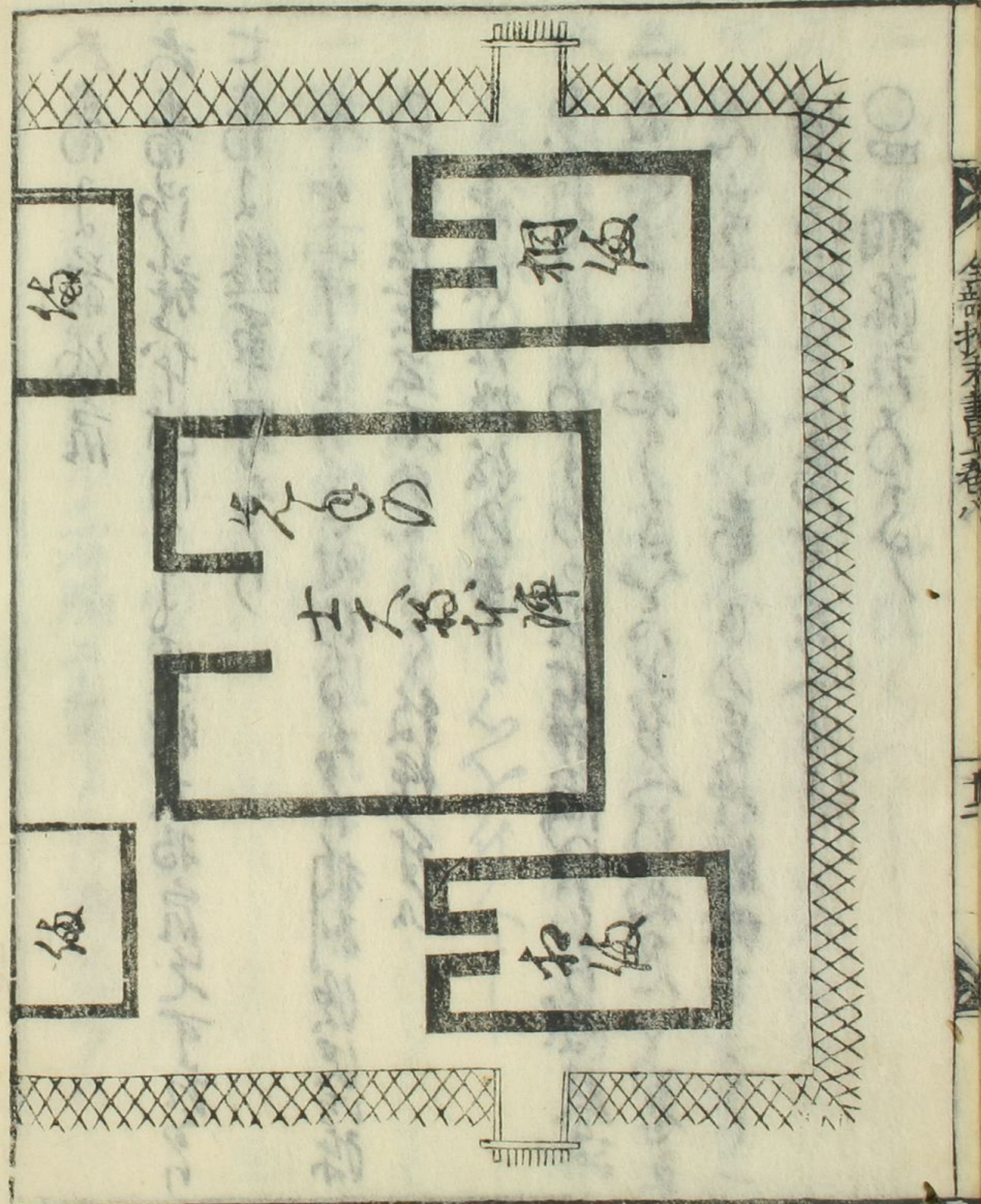
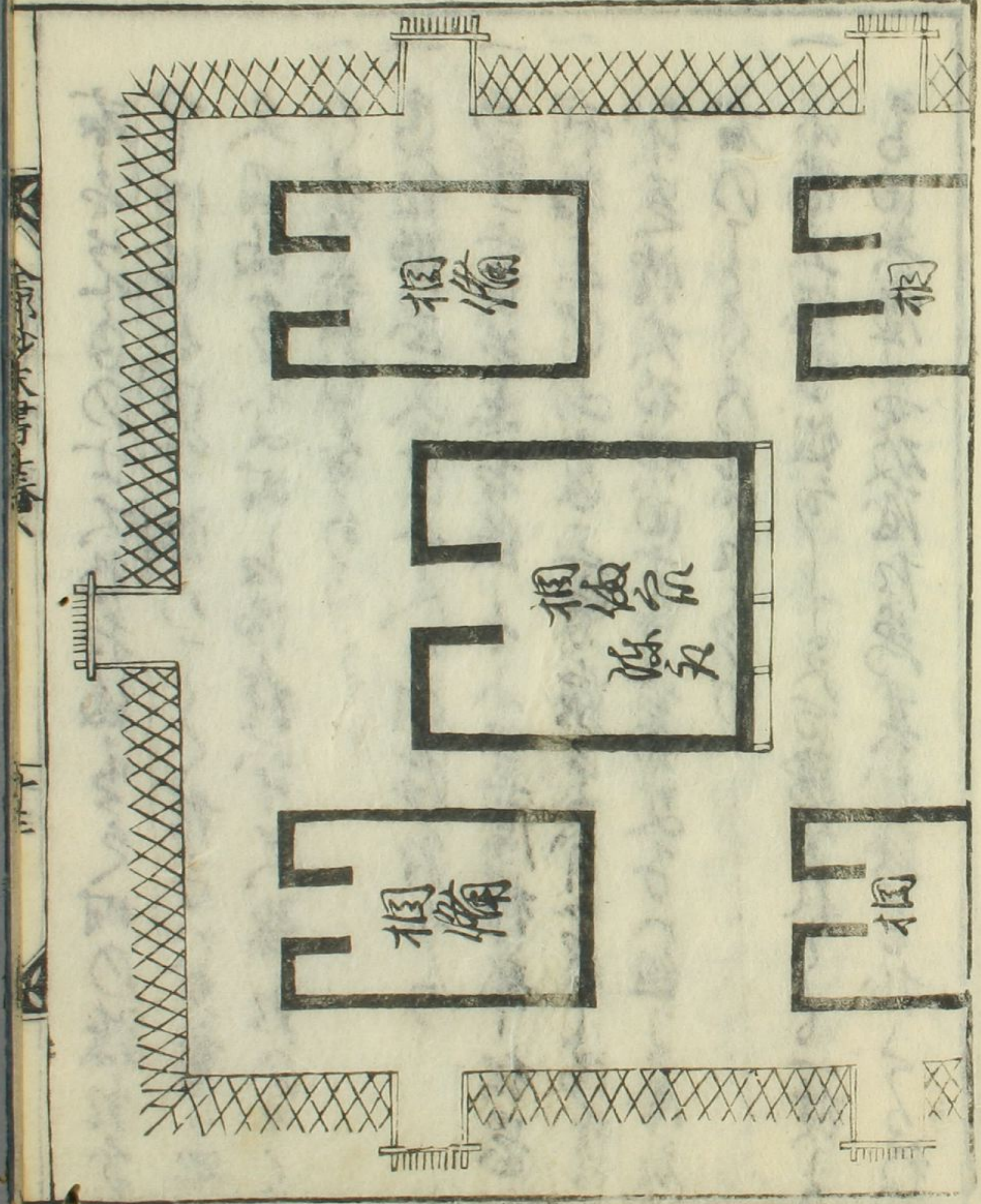
八番よ前後立

六番 湯籠をけ内しは是様大拍立先可成り
 七番 よ遊軍持あり

右の山中里より下りて来るもの相列後立は陣
 の別法云右のどくく後立のもの

水渡り陣法の事

- 一 水渡りしるしりた右後立下り後立
- 二 敵地よりあやうきもの水りしり相刃と云ふは
 刃さすもの水りしり相刃の是様敵地より下りて
 くるもの二りしり相刃と云ふ
- 四 相成るもの



右の先子の士大將おゆまゝの時の陣形を
記し置はる由に陳りてし様子に少警り也
又相續多ふ時おゆまゝに陳れりとの
くおゆまゝなり

一高坂陣正父子二人ありし陣形なり

一山縣二高坂おゆまゝ小笠原掃部松尾
刑部三河山家三右衛門そゝか多し陣形
おゆまゝ大將横田十右衛門父子八組一層
右のしつゝに陳れり

一小幡上総守組あり又百勝をれし一旗一
多田共陣母破座た為其外勝るおゆまゝ

官ありてありし陣形なり

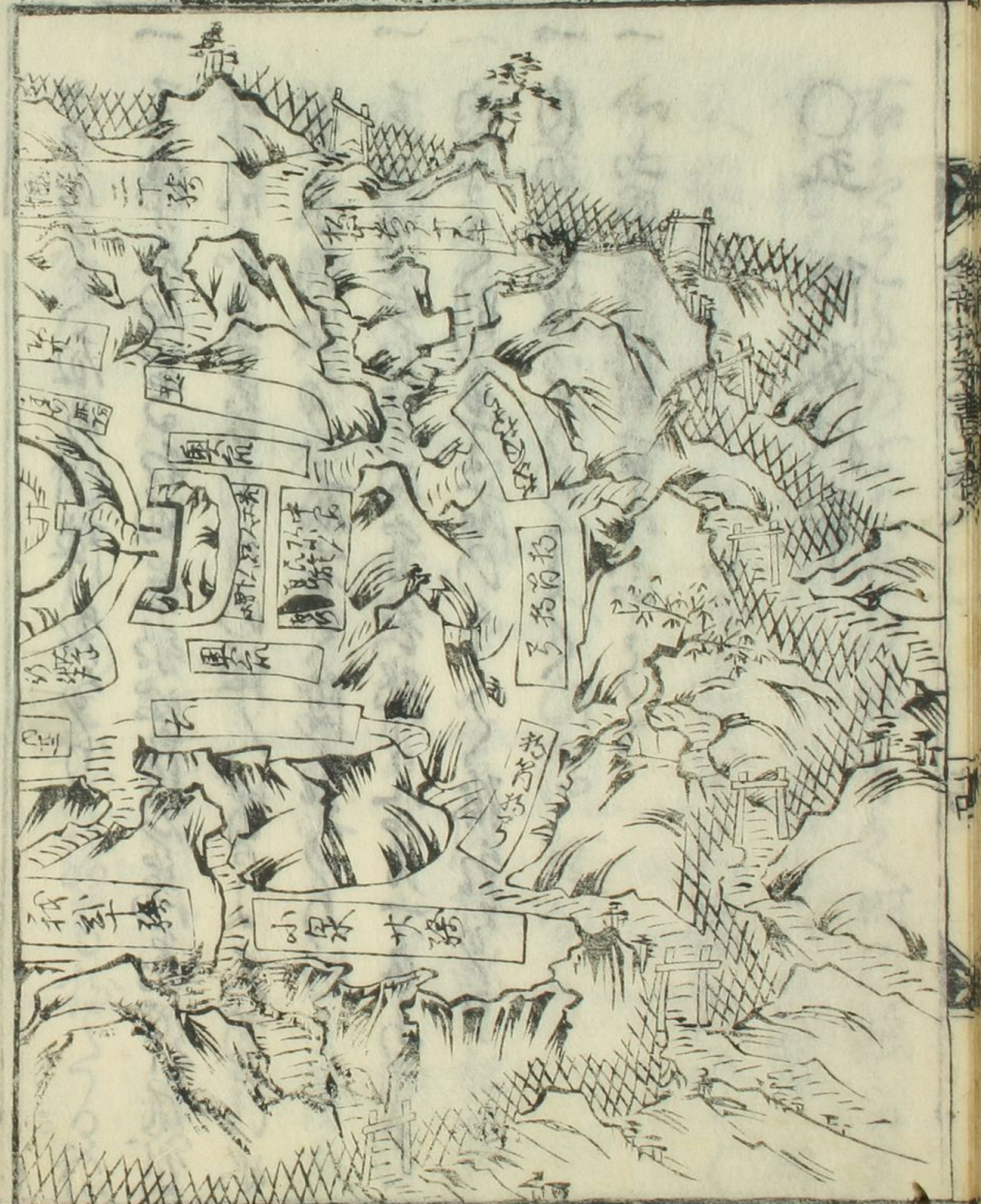
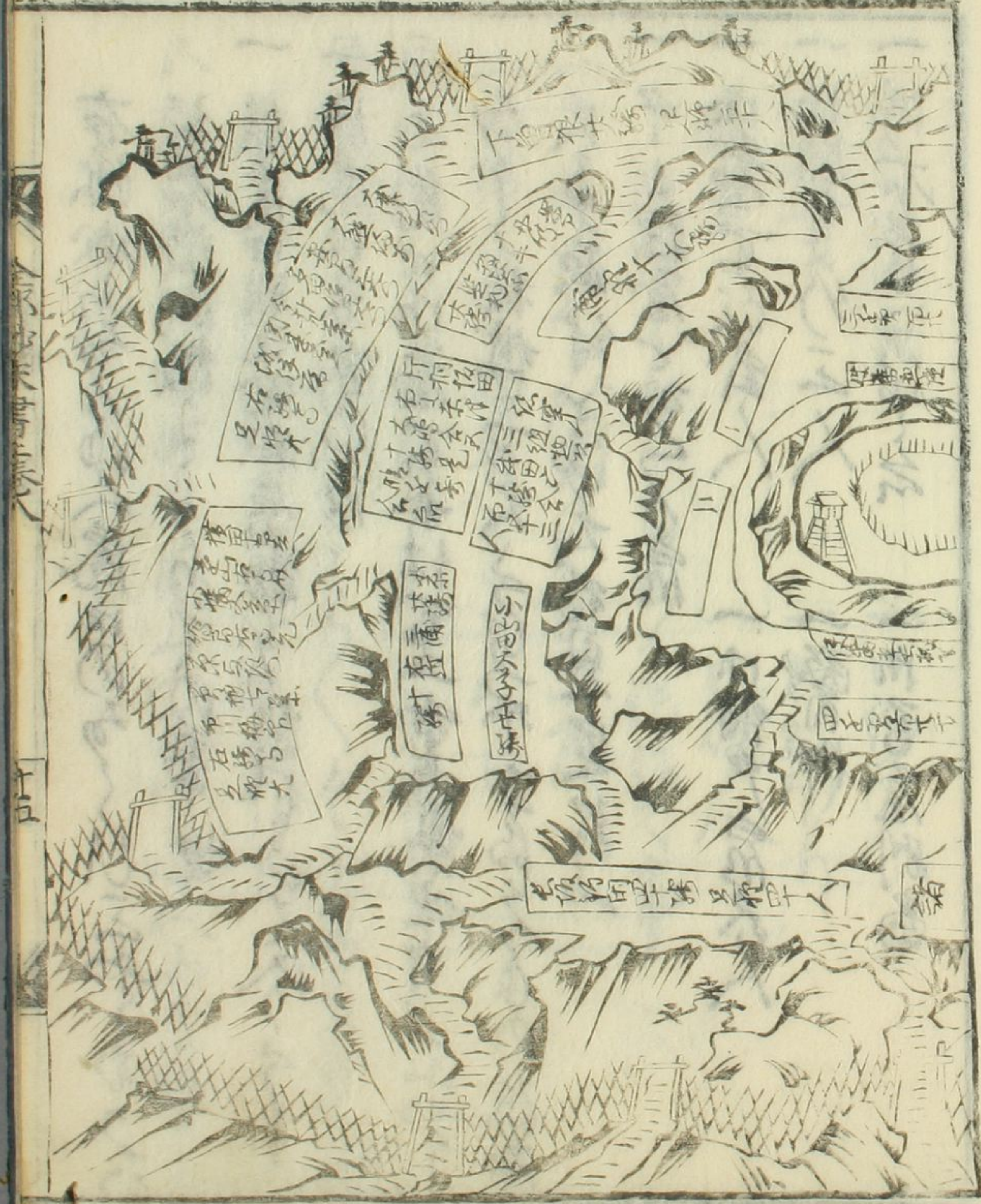
一高坂陣正父子二人ありし陣形なり
中流小笠原家よりありの倭人備あり大將清水
笠原相續ありありに陳れり

一高坂陣正父子二人ありし陣形なり
肉しつゝ別ありし右のしつゝに陳れり

一肉を修理しつゝのしつゝ

一高坂陣正父子二人ありし陣形なり

○五 陣形之事



右陳煥山ありて虎口のありて二ありありて
敵若敵剛敵よりりての事也

一 後虎口脇回輪和者勅より敵はをいそぐ

二 脇虎口勇方のた

三 西虎口は巻取仕事二重築地付リ三あり

あがく相模三ツ大うけつたさ高きもの陳煥
尖る敵討と涉大物見定路の

一 中一陳煥とわくる能

一 中巻取取武人 一 中細戸宿人

一 中脇巻取三人 一 中醫師

一 中右巻取一ツあり 一 中巻取別當

一 中巻取曲丸

一 中細戸人

一 中太刀

一 中巻取あり

一 中巻取

一 中巻取人

陳煥よりうらちある能法之事

一 乃種より人馬の食ふ度

二 乃種より物具とさるるなり

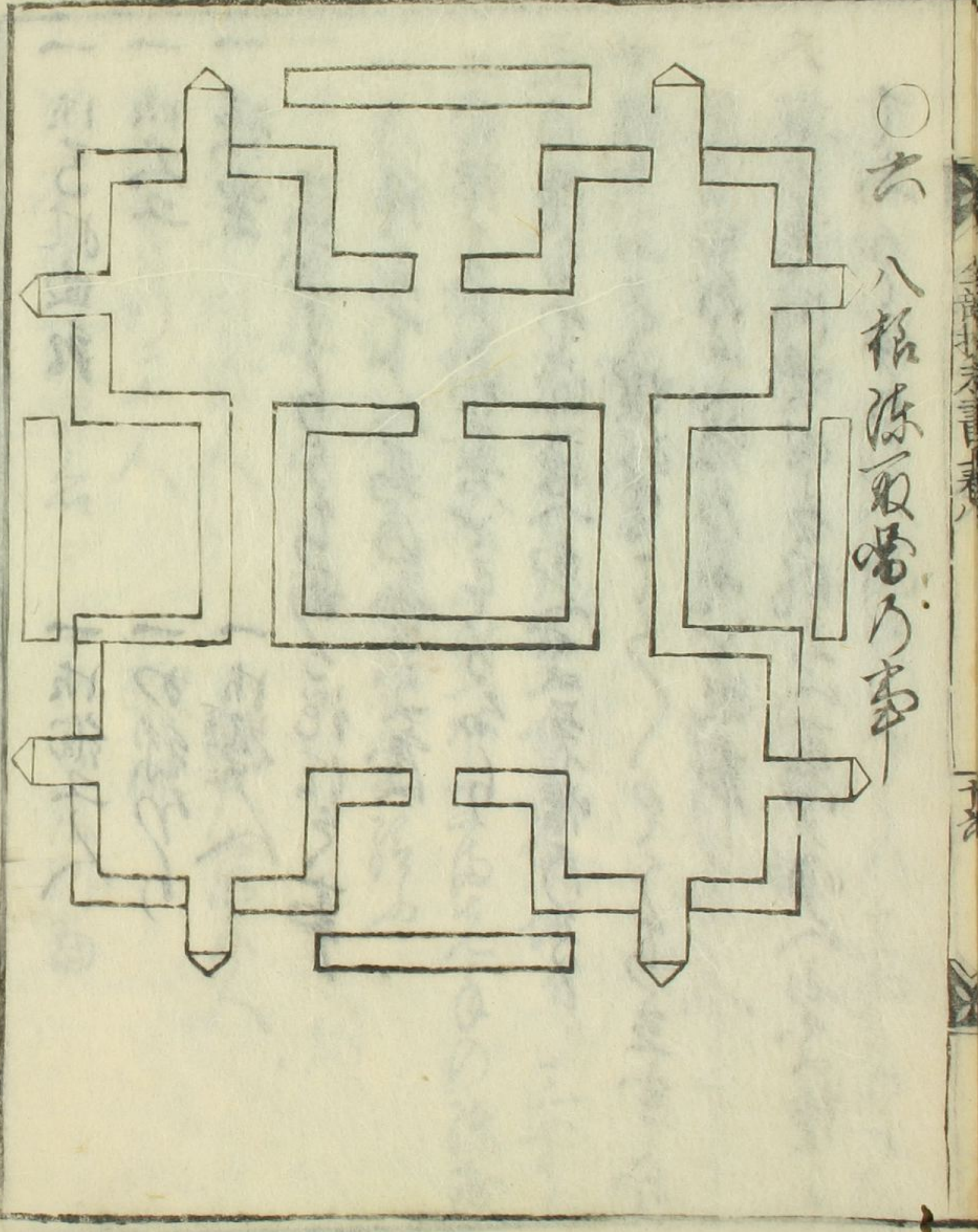
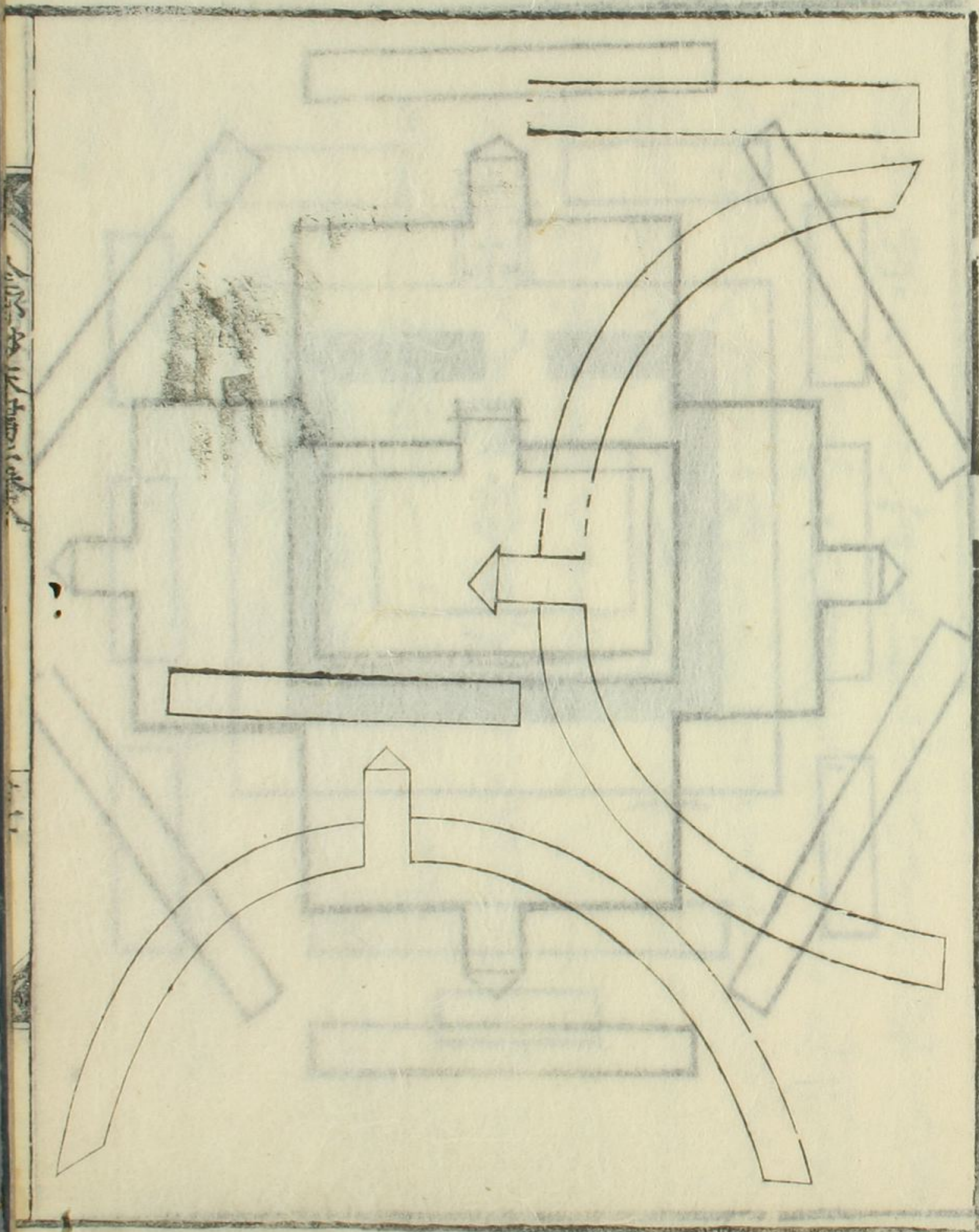
三 乃種より介張(あ)ふまは情りる

四 陳煥より螺(う)りてくをうらち立あて介

張より切あて能た具と配事

又右の種同吹時を同よへる守りの人あま種より

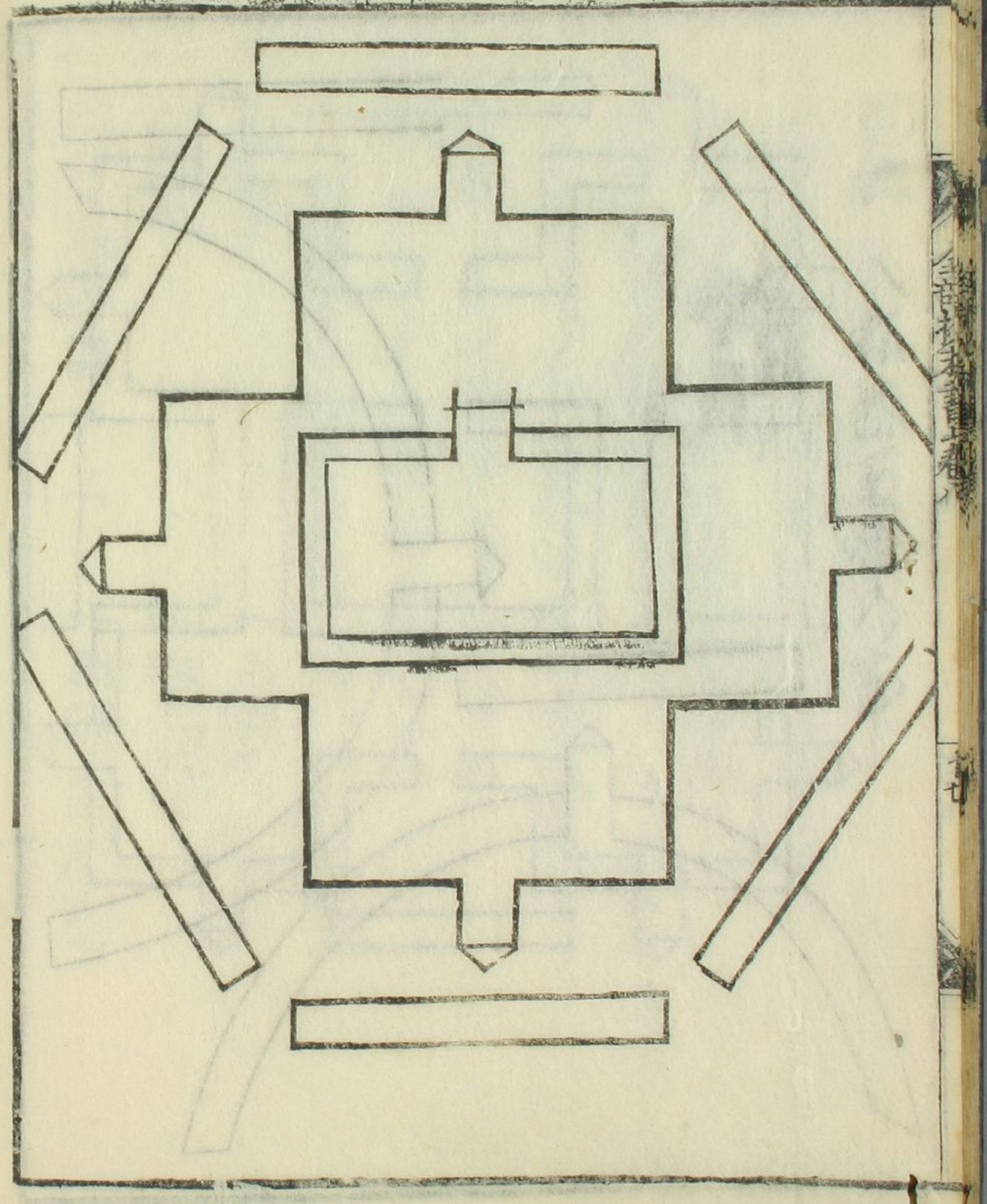
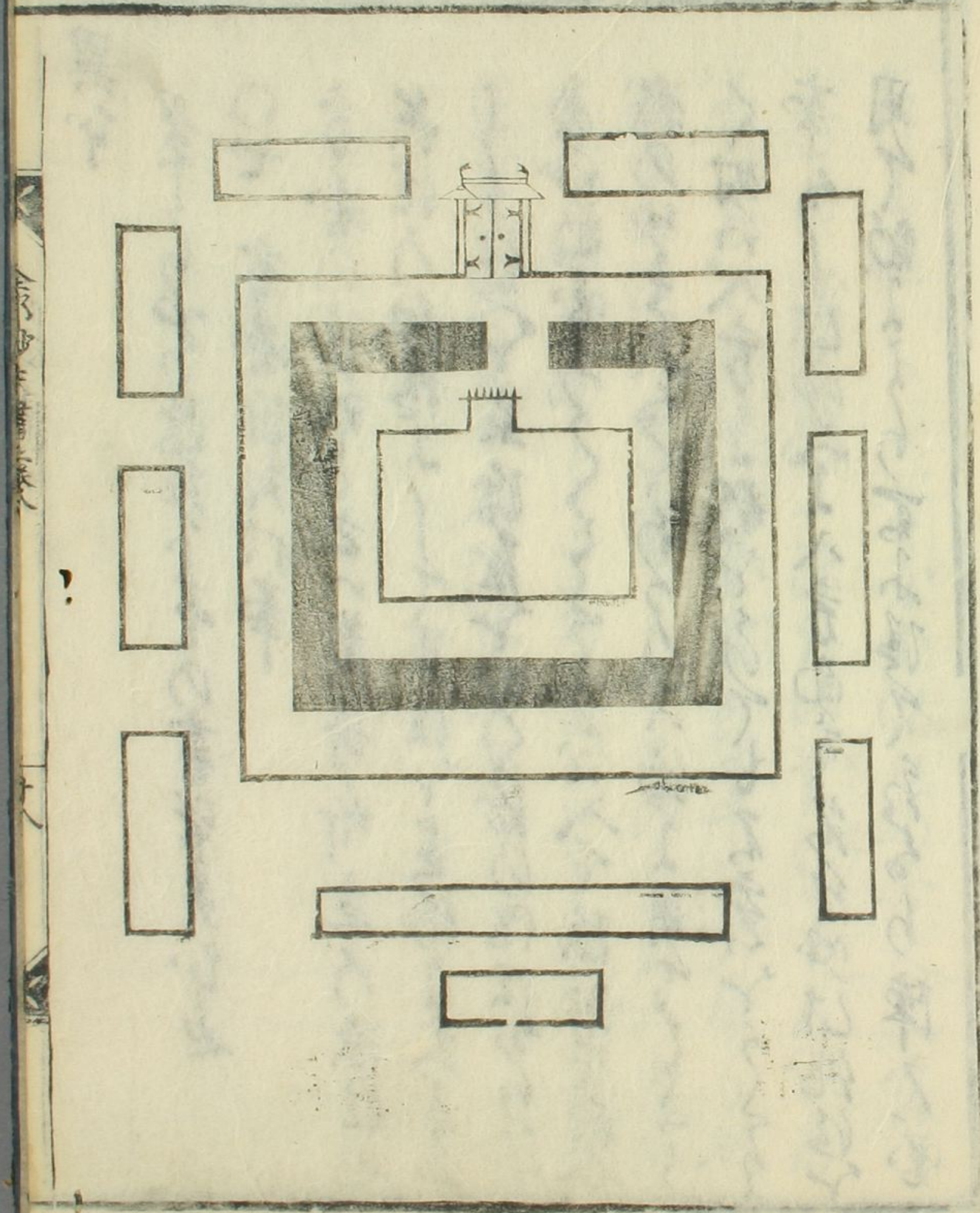
てあまあり



○六 八格流取場乃事

全譜抄書卷八

五



異中

是より下陳記下巻の書皆是なり也

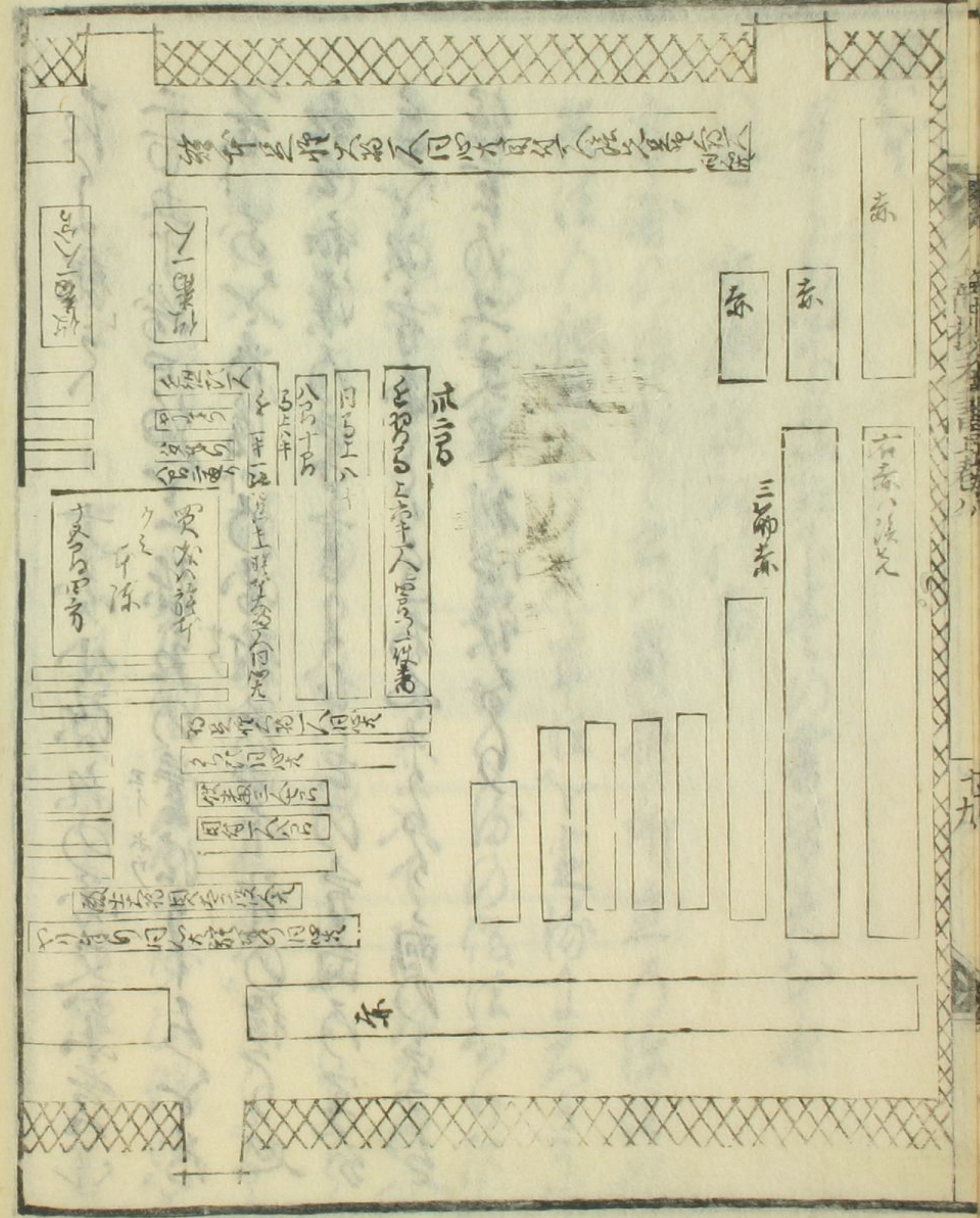
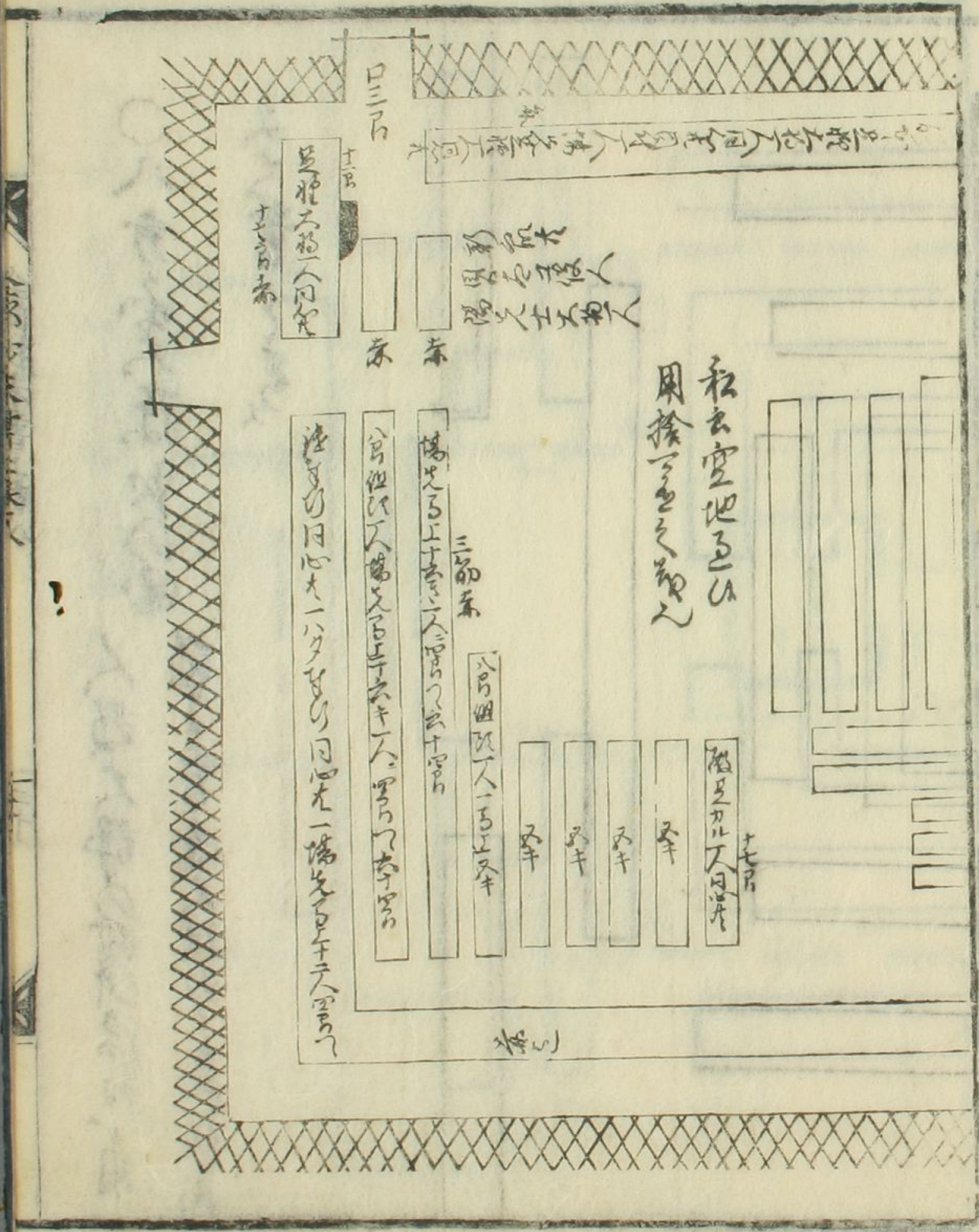
〇七 方角陳記の事

方角の陳記は之の黃帝所立の陳法也
其法の秘傳ありて軍法と定海と云ふ
一は海と立陳法とあり海の陳法ありた
るの秘傳ありて之を以て陳記を撰
我の如きれらてわらひの海は用々
く町の八方に陳記ありて不意と
事ありての一方の方面を名付必し
用て敵より入りておぼしめあり陣

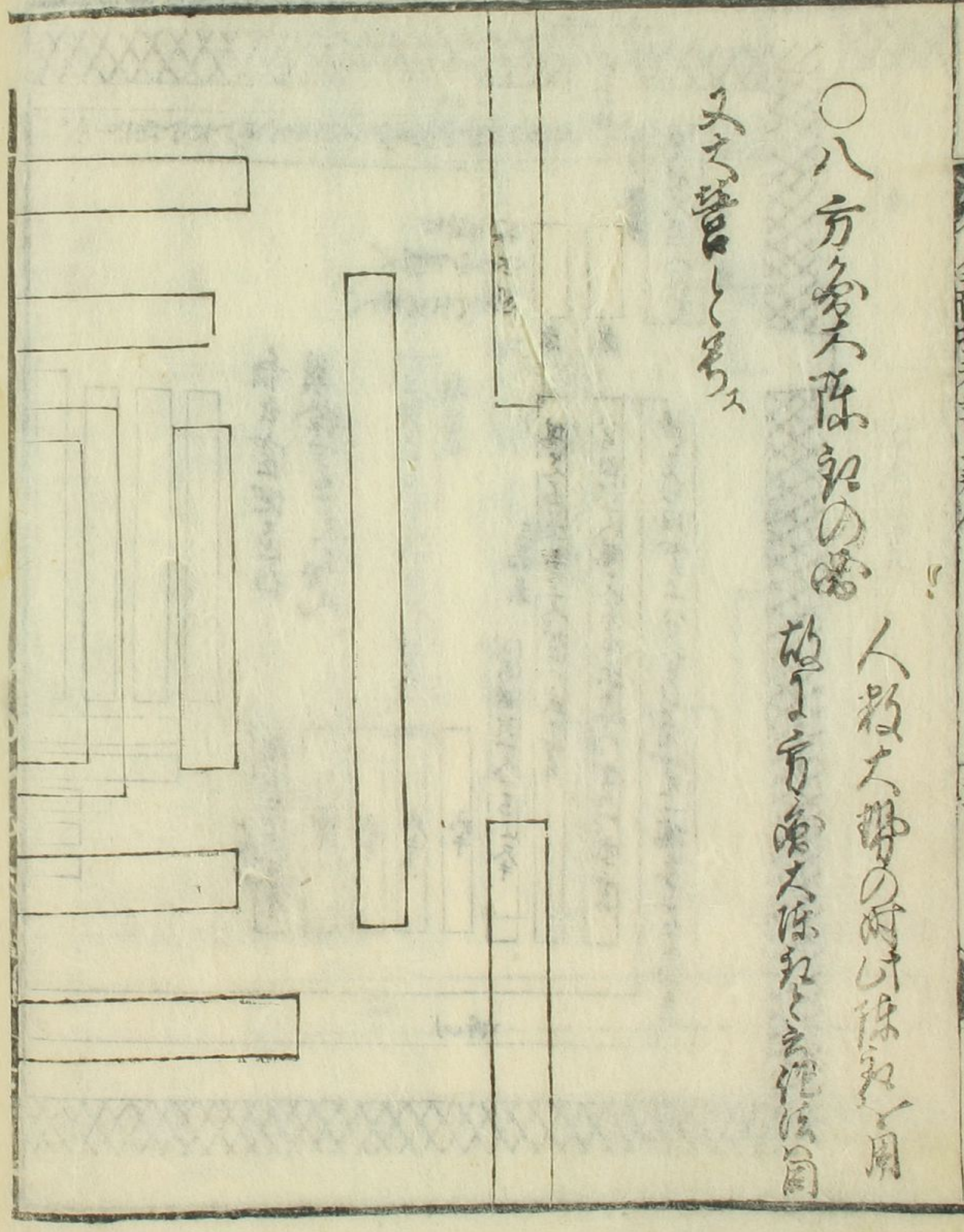
たし記す

方角小陳記の書又小書

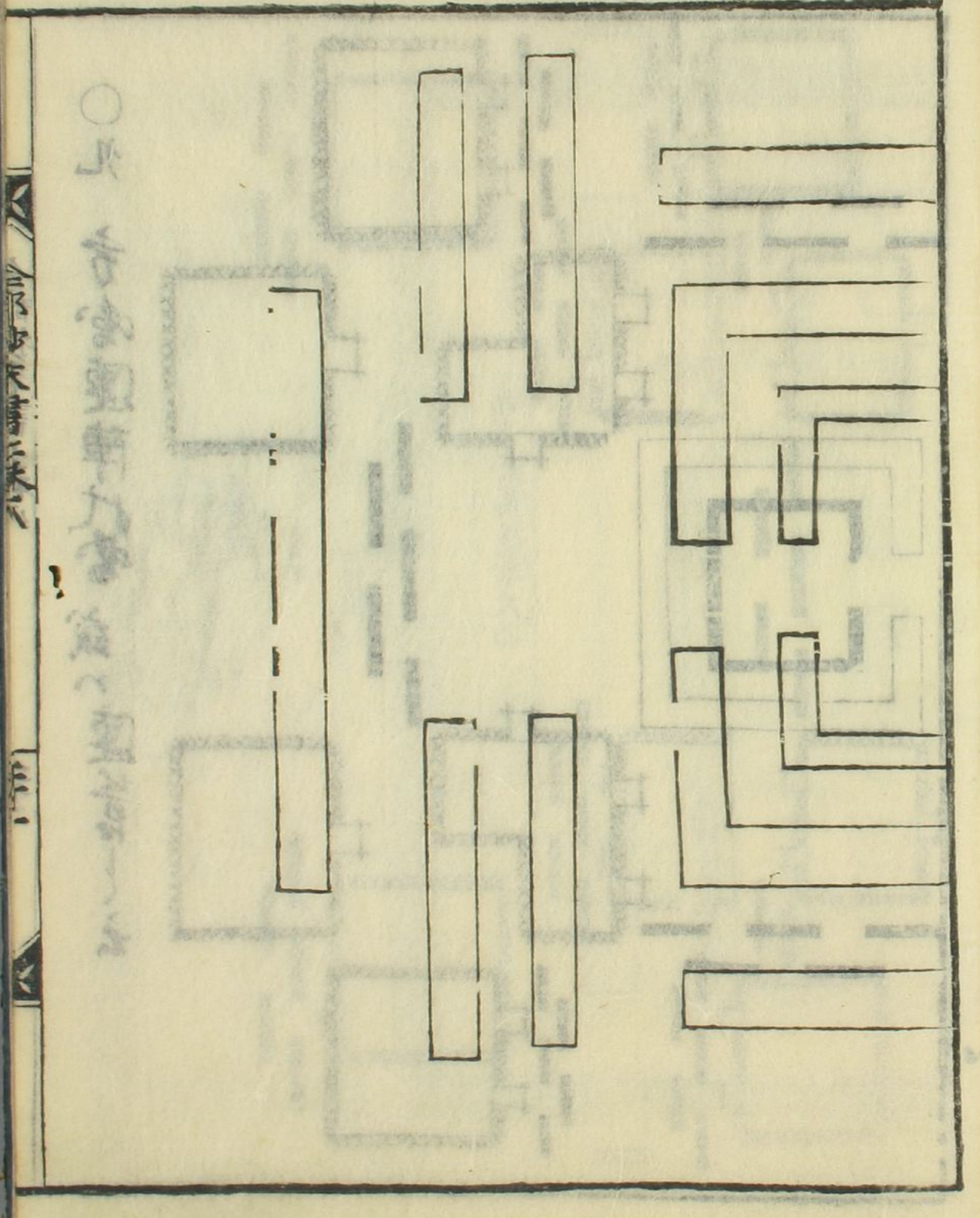
二百五十海口海と一陳記の當法ありて
是れありて海口の書雜兵四千計の
私伝和漢の字書と云ふの方面の字
を以て方角と云ふなり其の字を
伝伝ありて又甲別記あり



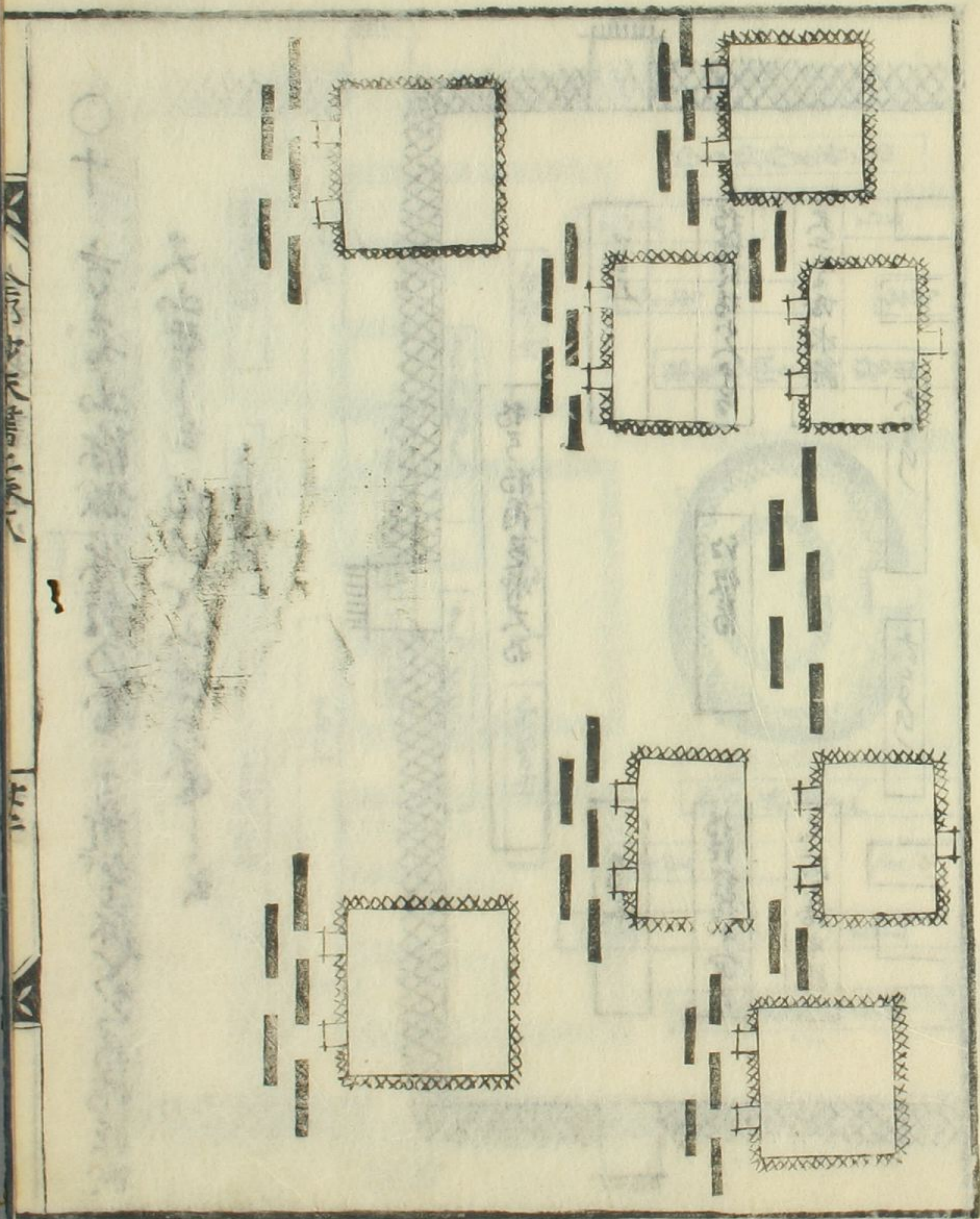
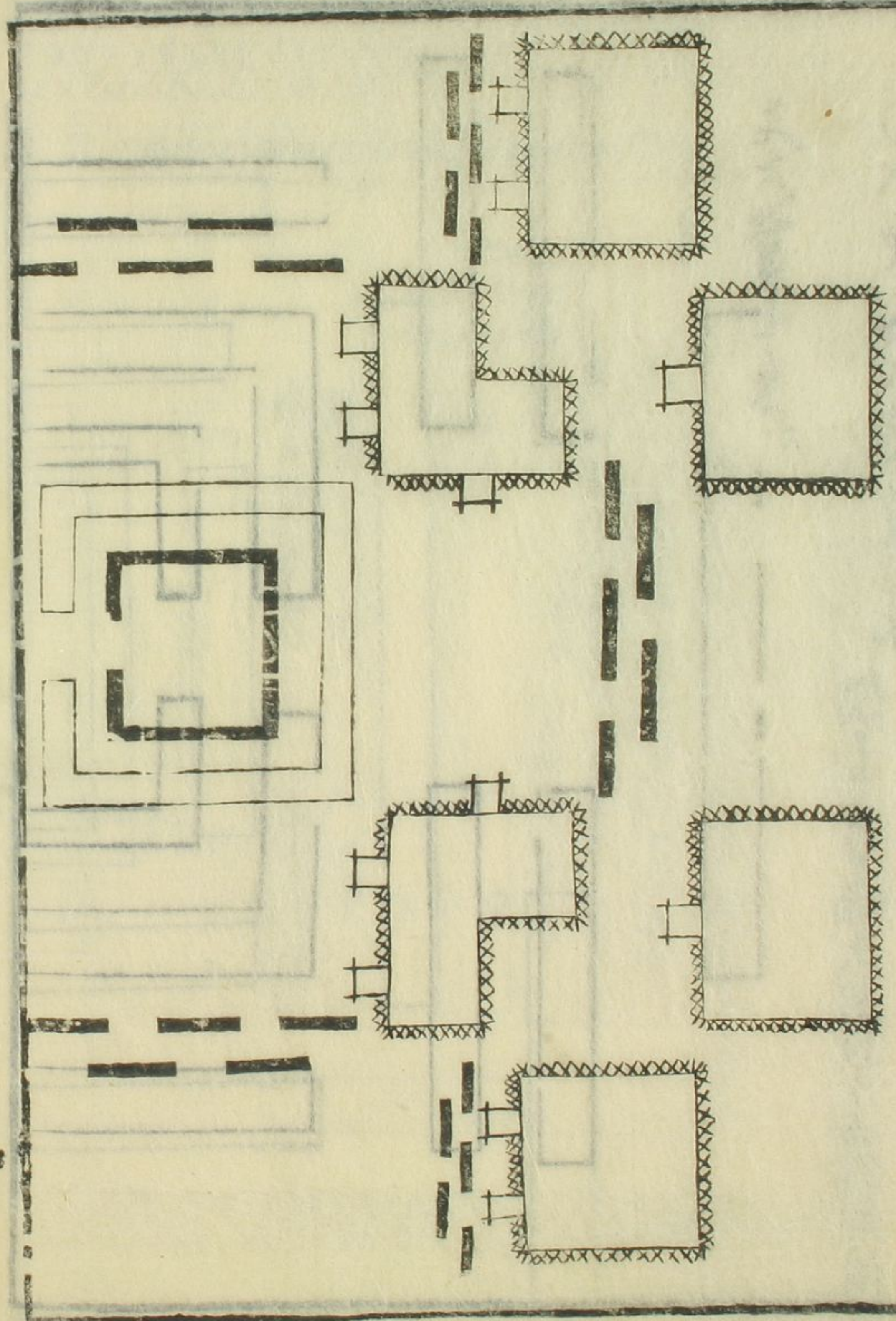
○八方を大陳列の
人教大帯の付け保れ用
故に方角大陳列を
又之管と云ふ



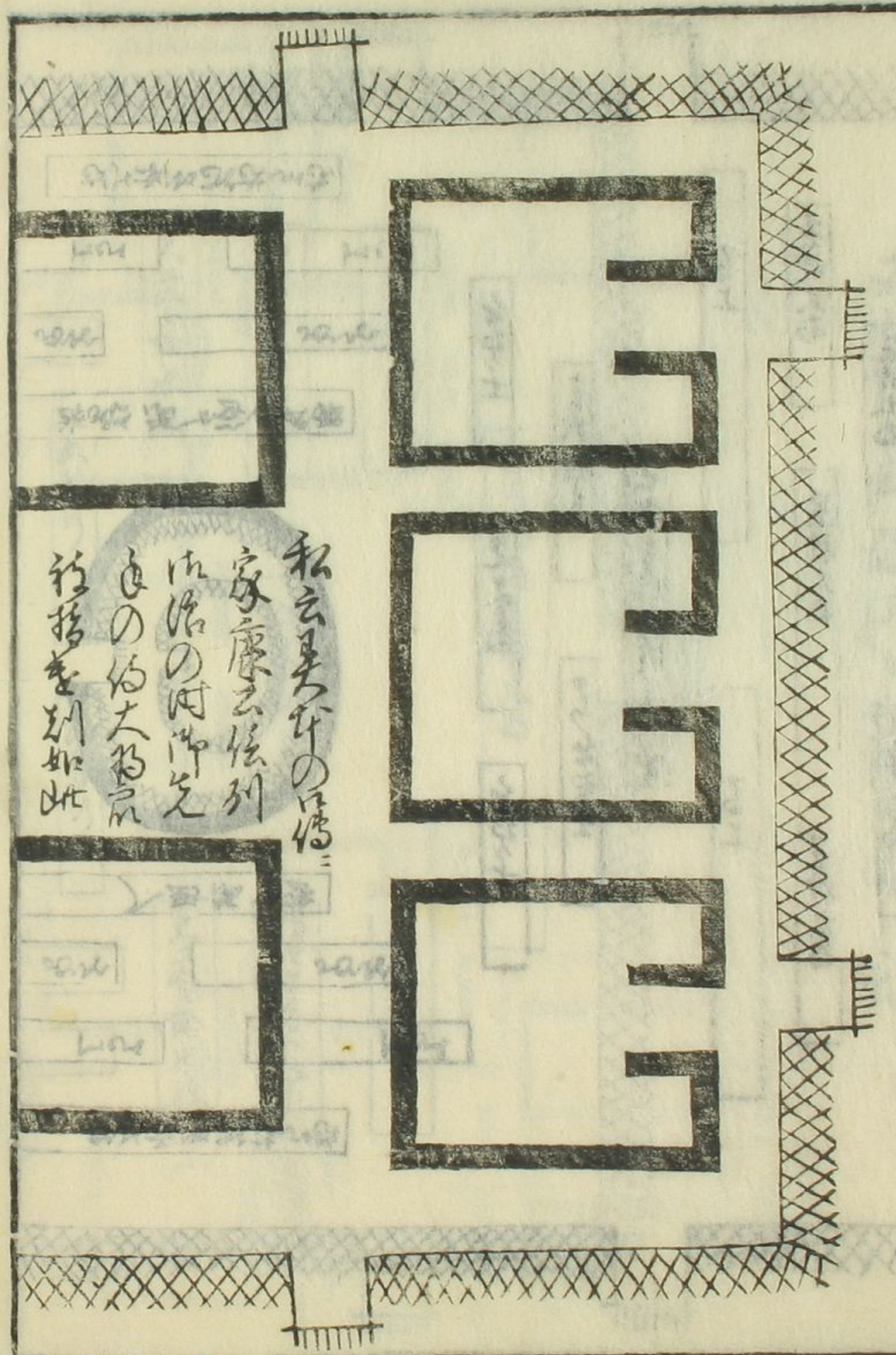
○方角大陳列の
故に方角大陳列を



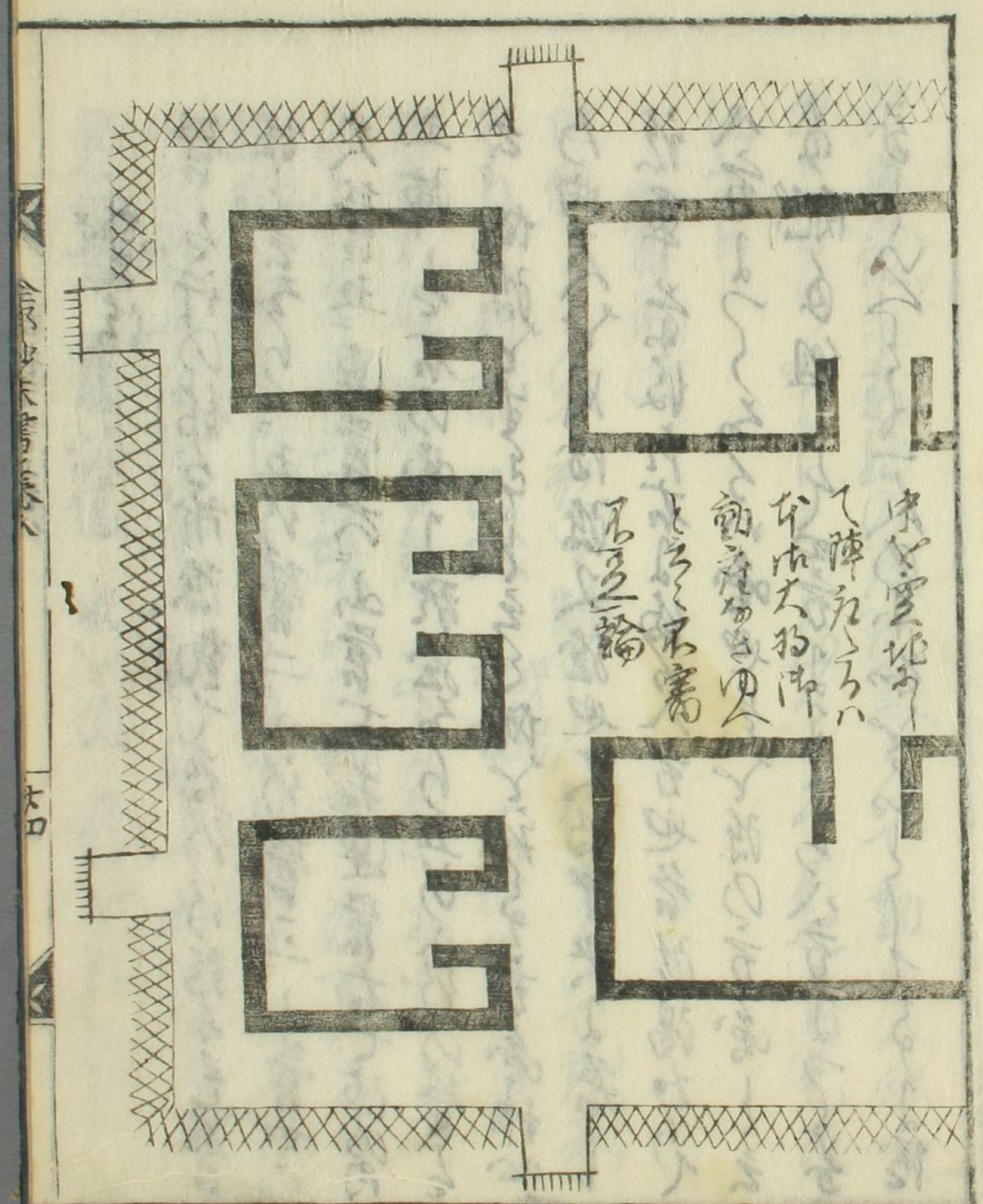
○九 方營陣此營或ハ連營ノ云



○十一 方お陣の番 又ハ お連管と名付



私云是方のはつ
 家康云佐列
 内治の時御先
 直の約大御前
 新橋を別如此



中々実地
 陣方よりハ
 本中大御前
 御前分より
 と云く不審
 不足論

營法

營と行の部を前陳動て為行の部は是と營
 法と云ふなり一五の營二八の營三小營四
 大營五連營六山營七お連營右七陣の
 五陣と右の部は五の部なり五の部の營と
 云、城陳とせよと云、城と云ふは方角神心
 乃曲天と用は陳又強也大物中央と居
 法軍を収た右と海八の部也各陰陽わりの
 八の部よりなるは也是と陳の方角と云
 ぬ配ぬ組して四方よりなる八の部よりなる
 是と云ふ一人の不知と云ふは是と云ふは

て妻に一苗法の及はよりの動くは律の
 是尺ありありと云ふは是と云ふは是と用是陳
 法あり

營用法

地敷より引て動と制と人教より引て是
 あり人教配陳城 柵欄 大竹筒と云
 かきあはひ肉あり さつりささ あらうさ
 かくのとう 二のむらり 柵言 陳軍かきり
 新礼 りづー ささりささのさ ちがひさ
 川よそふ川と云ふはよそふ山と云ふは
 見切不 露伏場 味と波 藪と云ふは陳軍と

私傳法

云石正介

文あ

く

く

く

く

く

く

く

く

く

あ

七

書

等

乃

旧

和

漢

の

書

畫

ノ

流

テ

事

實

々

々

々

々

々

々

々

々

々

々

々

々

々

々

々

々

々

々

々

々

信

意

全

傳

集

末

書

上

卷

八

終

々

